

「川崎重工業（株）中国出向エンジニア過労自死事件」 ご遺族の思い、願いを汲み取った公正な判決を求める要請署名

川崎重工業株式会社（以下川崎重工業（株））は、造船・航空・鉄道などの輸送機器、各種産業用プラント設備等々、幅広い事業分野を展開し「世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献する“GlobalKawasaki”」（社長メッセージ）と自負する日本のトップ企業です。

そのトップ企業が 2013 年、自社の設計ミスでプラントトラブル状態の最中、中国語研修等も不十分のまま、合併企業に出向させた被災者の労働環境や具体的な労働実態、業務内容での苦悩など、日々の報告で実情を十分すぎるほど掌握し限界が来ていると判断しながら、なんら手を打たず逆にトラブル対応の責任を被災者に押し付けていった「安全配慮義務」違反の典型ともいえる“社員の命を守る安全システムが働かない”事態を作り出しました。その結果、若く未来ある優秀な被災者を長時間労働と苦悩の淵に追い込み赴任 3 か月後、愛妻と幼子二人を残して自死（享年 35 歳）に至らした痛ましい事件、これが「川崎重工業（株）中国出向エンジニア過労自死事件」です。

ここに至る実態は、残された 1000 通余りのメールのやり取りでも明らかです。しかし川崎重工業（株）はトラブル対応の責任を被災者に押し付けたことを隠すため、事件後もご遺族へ虚偽の説明をするなど無責任極まりない対応を続け、ついには会社への立ち入りさえも拒みました。

今やグローバル企業では、労働災害と認定されたら、まず責任を認めて謝罪し、再発防止策を具体化するなどの対応が常識です。川崎重工業（株）は自死が労働災害と認定された後も責任を認めず、ご遺族への謝罪もせず、事件に向き合う真摯な対応を一切放棄してきました。このような川崎重工業（株）の対応は常識外れと言わざるを得ません。

ご遺族が提訴された切なる思い、願いは「夫は海外で独りにされて、会社の犠牲になった。こうしたことが二度と起きないよう、会社は非を認めてほしい。社員ひとりひとりのことを思いやる組織であってほしい」ということです。

御庁が第二第三の被災者が出ないように、ご遺族の思い、願いをしっかりと受け止めていただき、事実にもとづいて明らかにした川崎重工業（株）の企業責任について公正な判断をしていただけるよう強く要請いたします。

氏 名	住 所

取り扱い団体：川崎重工業（株）・中国出向エンジニア過労死事件のご遺族を支える会

（署名集約）〒653-0036 神戸市長田区腕塚町 3-2-2 2 階 働くもののいのちと健康を守る兵庫センター

TEL：078-611-8638 FAX：078-646-7229